

「きっとうっど」の目指す先 — 12の「きっとうっどポリシー」 —

テンダーヒル御所わかば館 館長 鶴田 浩史

「きっとうっど」12のポリシー

ポリシー①：スタッフ業務を作らない

何時に何をするかといった「業務の枠」を事前に決めず、入居者の生活に応じて必要なケアを組み立てていく。ご利用者がいないところに、私たちの仕事は存在しません。目の前の人に寄り添うケアこそが、私たちの仕事のスタートです。

ポリシー②：入居者を選ばない

入居希望者をあらかじめ選ぶのではなく、今の利用者状況とスタッフの体制に応じて受け入れを判断します。あらかじめ「答え」を決めず、その都度話し合い、状況に応じて柔軟に対応することを重視します。

ポリシー③：統一介護を行わない

同じ対応をすれば混乱しないという考え方ではなく、スタッフ一人ひとりが自ら考えて動ける力を持つことを大切にしています。マニュアル通りの介護ではなく、認知症の方の変化にも対応できる柔軟なケアを目指します。

ポリシー④：できること・できないことは自分たちが決める

施設として「これはできない」と決めつけるのではなく、スタッフ全員の力を集め、その時その時で対応可能かを判断します。私たちの力が施設の力であり、常に最大限の努力をすることを大切にしています。

ポリシー⑤：家でできても施設では無理とは考えない

入所によって「できなくなる」ことを減らし、むしろ施設だからこそできることを増やしていく。チャレンジ精神を大切にし、「転居してよかった」と感じてもらえるような環境をつくれます。

ポリシー⑥：利用者をひとくくりにしない

「高齢者全体」として見るのではなく、18人いれば18通りの生活があります。少人数だからこそ一人ひとりに目を向け、個別対応を徹底します。

ポリシー⑦：人と人とのつながりを大切にする

少人数ケアの最大のメリットは関係性の密度。利用者とスタッフがしっかりと向き合い、深く関係を築くことで、より安心できる生活を提供します。

ポリシー⑧：問題をなくそうとしない

すべての問題を排除することが理想ではありません。人生には悩みがつきもの。問題を共有し、悩みながらともに生活することが、人間らしい暮らしだと考えます。

ポリシー⑨：入居者と同じリズムでケアを行う

スタッフの都合ではなく、ご利用者のペースに合わせたケアを行うことを大切にしています。ここはご利用者の「生活の場」であり、私たちの「仕事場」ではありません。

ポリシー⑩：肩書は意味がない。すべて「人」

ご利用者にとって、スタッフの職種や役職は関係ありません。誰が偉いか、誰が担当かではなく、「この人なら助けてくれそう」という信頼のもとで関係性を築くことを目指しています。

ポリシー⑪：ご利用者に助けてもらおう

支援されるだけでなく、ご利用者にも私たちを支えてもらうことが大切です。一方的な「してあげる介護」ではなく、互いに支え合う関係を築くことが尊厳を守ることにつながります。

ポリシー⑫：自立支援を貫く

「代わりにしてあげる」介護からの脱却。ご利用者の自立を支援し、できることはご自身で行っていただく。その過程で生じる困難を、私たちが寄り添い、支えるのが本当のケアです。

最後に

これら12のポリシーは、理想論や形式的な方針ではなく、私たちが日々実践しているケアそのものです。

「きっとうっどポリシー」という言葉にとらわれすぎず、常に目の前のご利用者にとって「いま、なにができるか」を全力で考えていきたい。そして、後から振り返ったときに、この12のポリシーに沿っていたと思えるようなケアを続けていきたいと考えています。